

(精神科専門) 訪問看護ステーション ラポールちかもり

所長 杉村 多代

活動状況

2023年は、12月に1名退職したが別の形で勤務継続し、常勤換算は昨年と変わりなく6名であった。

2023年も感染症（新型コロナウイルス・インフルエンザ）の影響はあり、利用者・職員関連含めキャンセル数が昨年と比較すると54件減少したものの26件あった。利用者本人というよりは入居施設内での流行、同居者の感染が多く、その殆どは事前に連絡があったが1件のみ訪問して伝えられたこともあった。

キャンセル件数は感染症の影響も含めると417件で、件数は昨年比△65と減少した。内容は、事前連絡が8割、事後連絡は2割で昨年と比べても事前連絡が多くなっている。事後は訪問しても他の用事があるとキャンセルになることが6割で、不在は3割弱であった。訪問してもキャンセルが続く利用者については現在中断としており再開の目途は立っていない。

利用登録者数は月平均143名で昨年と変わらなかったが、訪問件数は397名と昨年より23名増となった（グラフ1）。訪問頻度は例年と比べて隔週訪問より毎週訪問の方が多く、半分程度となっている。昨年と比べると重症化している。

新規利用者は36名と昨年に比して16名多く、終結や中止した利用者は27名（昨年比+3名）だった。終結等の理由の「必要を感じない」は昨年同様4割、次点は2割の施設入所であった。他は通院先の変更や入院、死亡したことでの終結もあった。ハラスメントにより終結とした利用者もあったが、軽快による終結が2名あったのは嬉しいことである。

今年は、外部の看護師（あき総合病院精神科所属）5名の見学実習を受け入れたが、日ごろの実践の振り返りの機会ともなり当方も大きな学びとなった。

全国では今年も残念ながら精神科関連の虐待事件があり、来年度法律改正もある。倫理的、法的な実践は必須であるため、日々研鑽を重ね醸成し続ける組織としていく。



グラフ1. 利用者数・実施件数 年間平均推移

学術発表・講演会等

高知県訪問看護ステーション協議会主催 管理研修講師 2023年9月20日